

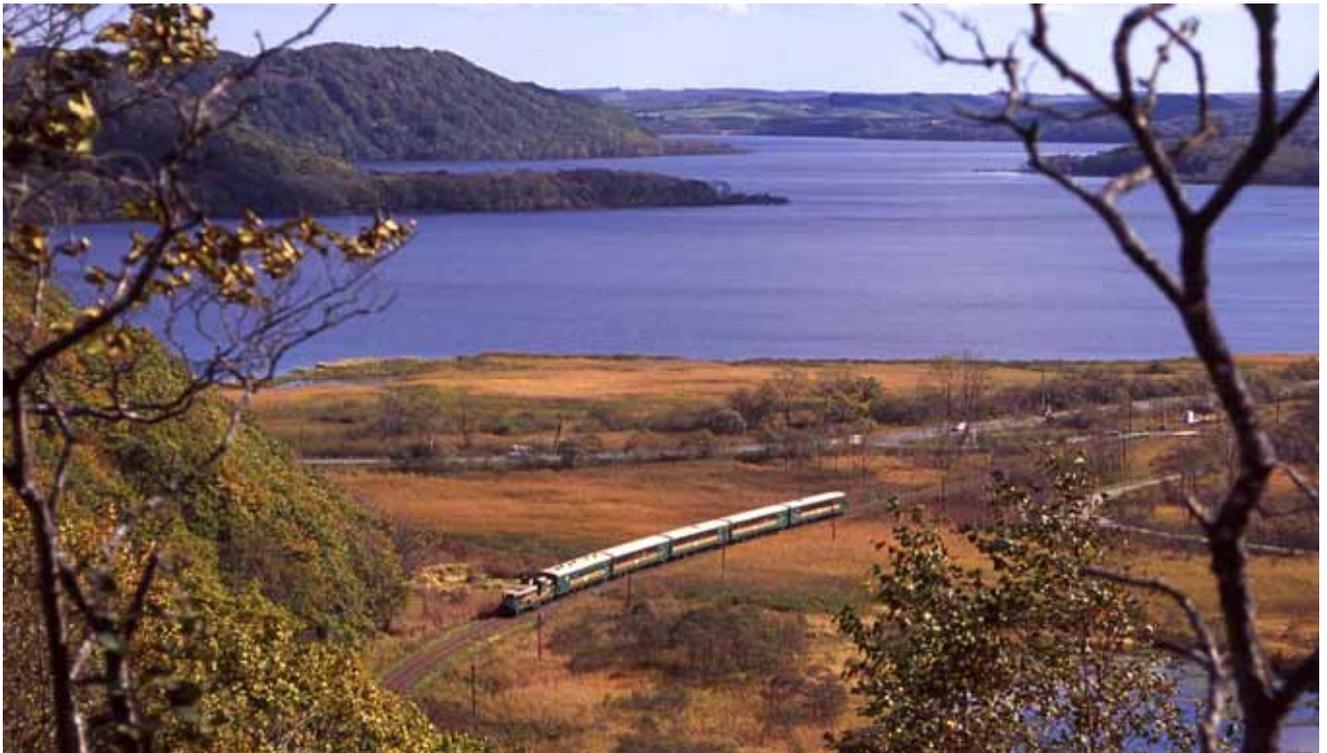
月刊やちまなこ

2011.10.15 発行

No. 167

10月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



初霜や初氷の便りが聞かれ、遅れていた紅葉も目立つようになった。エゾヤマザクラ、ヤチダモの木は既に落葉したものもあり、風の強い日が続けば、紅葉シーズンは早くも終わりとなる。

日没もだいぶ早まり、オレンジ色の光の中に雪虫の飛び交う姿が見えた。

コッタロ川と湿原のほとりから

136 10月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

秋霖真っ只中，鬼灯の朱色がひととき目に鮮やかな昨今です。相次ぐ台風の北上で，は茶滅茶な天候による異様な暖かさに浮かれていると，一夜にして初冬の幕開けとなった10月は，一日毎に1下がる変わり易い気温が4日間続き - 4 でようやく打ち止め，以後再び暖秋に戻っております。その間一気に霜枯れたクルミとハリエンジュは無残にも変色した葉っぱを垂れ，夜目にも不気味な影をふくらませておりましたが，雁渡しに吹かれ大方落葉し，山野に目をやれば，“遅ればせ乍ら紅葉はこれからですよ～”と告げております。

ところで吉報を2つ，3つ。まずは8年ぶりのビンズイをごらん下さい。独特の歌唱法と飛翔の姿が印象に深く刻み込まれた私共にとってこの鳥は，胸元から腹部への斑文様が美しい若鳥の様でした。次に三年越しかと思われるコサメビタキの成鳥も飛来し，飛び交う虫を空中で捕食する技を披露してくれました。時折疲れては樹枝で一服している瞬間をパチリ。ひょっとして幼鳥が近くにいるのではないか，とのこちらの期待をあっさり裏切ってくれたではありませんか。



又，このところ3～4年位確認出来ずにいた『シメの子育て』をバッチリ記録におさめることが可能となったのです。一日一羽ずつ増えてきたヒナを合計4羽，親のみでせっせと給餌し一週間で子別れしたのでした。その間親は全く現れず仕舞。シメっ子等がその後何処へ行ってしまったのか？も無知な人間にとっての謎。自然とは何て厳格かつ不思議な掟を人に悟られることなく徹底していることでしょう！！

さても本日(10日)山の端にいましも昇らんとしている太陽が雲間からキラリと輝き出して“朝焼けのひやかな雲流れけり 子規”の句同様の光景を体感し得たことに感謝の祈りを捧げるばかりです。



湿原の住人たち その127

カワセミ(翡翠)

「カワセミの魅力は」と聞かれたら皆さんは何を挙げるでしょう。陽が差し込むと頭・背中・尾までの青緑の体色が輝きを増し、飛ぶ宝石の称号にふさわしい色合いになるので、「羽の色!」と答える人が多いのでは……。あるいは親近感を覚えずんぐりした体に短い脚?それともホバリングとダイビングを繰り返しながら長いくちばしで魚を捕らえる俊敏な動きでしょうか。写真は脳しんとうでも起こしたのかベランダでしばし佇んでいたオスです。白目になって具合が悪そうにも見えましたが、瞬膜を閉じて日差しや風から目を保護していたのかもしれませんが。釧路湿原では夏鳥(一部越冬)の水辺のスター翡翠を23日開講のバードカービング講座で作ります。



【10月の自然ふれあい行事から】

秋のキノコ観察会 10月15日午前10時からサルボ展望台周辺で開催予定でしたが、未明からの雨が止まず、エコミュージアムセンター内で講師の奈良泰世氏(日本菌学会会員)の講話を行いました。画像と標本を使って木とキノコの関係やキノコの生活、役割など自然のしくみを解説していただきました。染物や料理など様々な楽しみ方や食毒の見分け方の紹介もあり、参加者から「キノコの絵を描



シシタケモドキを解説中の奈良氏

いて楽しみたい」、「食べる目的でキノコを見てきたが、キノコを観察する時のポイントがわかった」という声がありました。和やかな雰囲気の中で参加者18人の感想や今年のキノコの発生状況など情報交換も活発に行われ、有意義な時間となったようです。



ケヤマハンノキに出たマンネンタケ

ネムネムのとうろうろう日記 Vol.33 「リンゴドクガのアンゴラちゃん」

ずいぶん寒くなったこの季節、イモムシを見かけます。イモムシは嫌いですか?私も苦手な柄や質感のイモムシがいますし、枝葉に密集した大量の彼らを見ると卒倒しそうになります。でも彼らに対する礼儀として、見てから気持ち悪いかどうかを判断するようにしています。

例えばこのリンゴドクガの幼虫。写真では、棒ですくいあげたのに驚いて、体の節にある黒い模様を見せて脅かしていますが、普段はこの黒い模様は目立たず、ほとんど全身レモンイエロー。お尻に一束ピンクの毛をあしらうなんて、さすがイモムシの本でフルカラーの表紙を飾っただけある美しさです。ちなみに顔の部分にまで毛が覆いかぶさる様子が「アンゴラウサギみたい!」というスタッフの言葉で、名前は「アンゴラちゃん」に決定。

アンゴラちゃんを乗せた棒を郷土館に立てかけると、彼(女?)は外壁をひょこひょここと上がっていきました。きっと郷土館のどこかで蛹になり、冬を越すのでしょうか。

辻 ねむ(標茶町郷土館学芸員)

9がつ 29にち

ばしょ とうろ



イモムシ時代はこんなに華やかなのに、大人になると可愛そうなほど地味なガになります。

10・11月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

標茶町郷土館特別展「しべちやの遺跡 最前線！」

[日時] 10/7(金)～10/21(金)まで [場所] 塘路湖EMCレクチャールーム

フィールドウォッチング・植物のふしぎ

[日時] 11/19(土) 10:00～12:00

[定員・参加料] 15名、無料

[場所] シラルトロ湖・蝶の森周辺

[集合場所] 憩の家かや沼駐車場

申し込み 問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

自然からの贈り物でいろいろ工作 [日時] 11/13(日) 13:00～15:00

申し込み 問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(9/30)シラヤマギク・ヤマハハコ・エゾリンドウ・エゾトリカブト・センボンヤリ・コガネギク・アキノウナギツカミ・ミゾソバ・カンボクの実・カラフトイバラの実(10/3)ヒメカイウ・コウライテンナンショウの実(10/8)ナギナタコウジュ・ホオノキの実・キタコブシの実・マイヅルソウの実(10/10)ツルウメモドキの実

【鳥】(9/18)キジバト(9/19)ヒシクイ・マガモ(9/20)ムクドリ(9/23)ノビタキ(9/24)カワウ(9/26)カイツブリ・オシドリ・オオバン・アオサギ(9/27)ユリカモメ(9/30)オジロワシ・ハクセキレイ・ムクドリ(10/2)タンチョウ(10/7)ミヤマカケス(10/10)アオジ(10/12)オオハクチョウ・ミサゴ(10/13)ヒドリガモ

【その他】(9/18)ズキンタケ(9/24)シダクロスズメバチ(9/26)エゾツコムシ・エルタテハ・クジャクチョウ・モンキチョウ(9/30)マユタテアカネ(10/8)アカタテハ・エゾシカ・キタキツネ(10/14)エゾタヌキの死骸

8月22日から立入禁止になっていたサルボ展望台・サルルン展望台の木道(階段部分)は9月末より通行可能となりました。木道に壊れやすくなっている部分がありますし、落葉で滑りやすい所もありますので、通行には十分気をつけてご利用ください。

日出・日入時間 10/15(5:35,16:41)・10/31(5:54,16:17)・11/14(6:12,16:01)



越冬間近のアカタテハ(10/8サルボ)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00～17:00(11月～3月は16:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料